

—大阪大学— NewsLetter



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

NO. 72

Quarterly
Magazine
Summer
2016

Special Topics / OU ビジョン 2021

知の協奏と共創による
University4.0 への始動

Cover Feature : Osaka University Japanese Archery Club

「七大戦、男女ともに団体優勝!」弓道部





「七大戦、 男女ともに団体優勝！」

Osaka University Japanese Archery Club

弓道部

1963年創部。現在、平日に1日と土曜日の全体練習を中心に、豊中、吹田の2キャンパスで活動している。関西学生弓道リーグで男子は2部所属、女子は3部所属。2015年の七大戦では、男女とも団体戦・個人戦で優勝。女子は2年連続でリーグ昇格を決めた。大阪大学体育会で七大戦において顕著に活躍した団体等に贈られる「山村賞」を昨年度受賞。部員数は71人。(21ページにインタビュー記事を掲載)

OUビジョン2021

(Osaka University)

大阪大学「進化の期」

大阪大学は、創立90周年にあたる2021年を見据えた第3期中期目標期間の6年間を「進化の期」と位置づけ、たゆまぬ自己変革の指針として「OU(Osaka University)ビジョン2021」を策定しました。本ビジョンのもと、大阪大学はその源流である懷徳堂と適塾の精神を継承しつつ、社会の安寧と福祉、世界平和、人類と自然環境の調和に貢献する大学となることを志し、多様な知

の協奏と共創によって、学問の真髄を極める高いレベルの教育研究を追求します。また、新たな学術領域の創成、専門分野を超えた知の統合学修を通じて地球規模の社会問題を解決し、人間性豊かな社会の創造に大きく貢献する人材を輩出します。それらを着実に遂行することによって、「世界屈指の研究型総合大学」へ発展することを目指します。



大阪大学総長

西尾章治郎

— 知の協奏と共創による University4.0 への始動 —

大阪大学は、1931年の建学以来、かねて大阪の地に根づいていた懷徳堂、適塾の市民精神を受け継ぎつつ、自由闊達な市民社会とのつながりを大切にし、地域とともにあらんとする精神を脈々と育んできました。活気溢れる市井に進んで門戸を開き、その豊かな多様性の中で、人類の理想を実現せんと努力する有為な人材を社会に輩出し、しなやかに実直に普遍の真理を見極め、世界最先端の学術研究の成果を世界に還元し続けてきました。これこそが「地域に生き世界に伸びる」をモットーとする大阪大学の真価です。大阪大学は、この真の存在価値にさらなる磨きをかけ、社会の旗手として、広く世界に夢と変革をもたらす原動力となります。

現代社会において、人類は、地球環境の悪化、資源の枯渇、宗教や民族間対立など、地球規模の困難な課題に直面し、深まる不安の中で、私たち一人ひとりの未来への展望は大きく揺るがされています。また、人類は、予想をはるかに超えたグローバル化の波に翻弄され、寛容さを忘れ、平和への道筋を見失いつつあります。社会への安定的な持続可能性を取り戻すためには、科学技術の進展に加え、人や世の在り方に関する深い思索を常に伴うことが不可欠です。こうした総合的な知を創出し、希望ある未来を切り拓くことこそが真の意味でのイノベーションであり、今、大学に求められる使命といえます。

そのような社会からの負託に応え、先人たちから引き継いだ歴史を次世代へと確実につなぐために、大阪大学は、創立90周年にあたる2021年を見据えた第3期中期目標期間の6年間を「進化の期」と位置づけ、たゆまぬ自己変革の指針として「OU(Osaka University)ビジョン2021」を策定しました。このOUビジョン2021は、大阪大学が国立大学法人として新たな船出を迎える際に宣言した「大阪大学憲章」の基本

理念を、第3期中期目標期間において実装することを目的としています。

わが国においてイノベーションが遅々として進まない要因として、組織の内と外の間に立ちはだかる厚い「壁」と、その「壁」の内側で作られる狭い見込に差配されたコミュニティの存在が大きいのと考えられます。そこで、OUビジョン2021は、学内と学外を隔てる「壁」、また、学内における部局間の「壁」を取り払い、大学の知を広く世のため、人類社会の幸福のために開放すること、つまり「Openness(開放性)」を基軸とした上で、「Open Education」、「Open Research」、「Open Innovation」、「Open Community」、「Open Governance」の五つの柱から構成されています。大阪大学は、利害や立場を超えたあらゆる可能性の交差(cross)を実現します。すなわち、自ら誇りとする卓越した知の探求を礎としながら、学問分野間で知の交差に挑むとともに、社会の多様な担い手と協働することで、「知の協奏(Orchestration)と共創(Co-creation)」を実現する創発の場へと進化していきます。

大学のシステムの変革を辿ると、古典の研究と教育から始まり専門職養成の機関へと変遷を遂げた中世から近世の大学モデルがUniversity1.0、研究の重視とともに研究と教育を一体化させたドイツモデルがUniversity2.0、大学院制度を新たに設け、さらに社会貢献という使命を提唱したアメリカモデルがUniversity3.0とするならば、今日の大学はUniversity3.0の直中にあります。大阪大学は、その先に未知なるモデルUniversity4.0が存在することを確信し、OUビジョン2021のもと、「知の協奏と共創」によりUniversity4.0の実現を目指します。さらに、学生・教職員をはじめ大阪大学のすべての構成員が一丸となり、お互いの関わり合いの中で潜在的な革新性をゆり起こすことで、「世界屈指の研究型総合大学」へと発展していきます。



実感プログラムで研究を行う森さん(手前左)、平松さん(手前右)。受入れ研究室の基礎工学研究科 田谷 境研究室で

世界最先端の研究をいち早く体感

阪大で科学の種を発芽 「SEEDSプログラム」



大阪大学は昨年度、科学技術振興機構(JST)のグローバルサイエンスキャンパス事業に採択され、全学体制で「SEEDSプログラム」を開始。昨年度は、131名が受講した。科学技術に興味を持つ高校生等が大阪大学に集まり、互いに刺激し合いながら、世界最先端の研究活動を体感している。

▼科学技術をリードする人材を発掘



▲杉山 清寛 教授

「SEEDSプログラム」は、科学技術に興味を持つ高校生が、世界最先端の科学技術に触れることで、自分のなかに潜む科学への興味の種(SEEDS)を発芽させるというもの。全学教育推進機構SEEDS運営委員長の杉山清寛教授は、「将来の科学技術をリードする優秀な人材を発掘することにつながり、高大接続の新しい潮流となれば」と話す。

1年目の「体感プログラム」、2年目の「実感プログラム」で構成されるSEEDSプログラム。「体感プログラム」は、オムニバス形式の講義や最先端科学技術体験ツアーなどに参加する「体感科学技術」、物質系・生命系・数物系・応用技術系などの各コースで希望する

研究を体験する「体感科学研究」、留学生と英語による交流などで異文化を体感する「体感国際交流」の3本柱で構成。「実感プログラム」では、実際に研究室に入って研究を行い、さらに深く科学を体感できる。

▼高校での学習に対するモチベーション向上も

「『体感科学技術』で幅広い分野の講義を受講してもらうのは、限定的な興味分野にとどまらず、視野を広げて、本当にチャレンジしたい研究テーマを見つけてもらうことが目的です」と杉山教授。それぞれの講義後に行われる「めばえ道場」も大きな特徴だ。「講義を聴くだけでは知識に対する理解度や定着率が低いため、少人数グループに分かれて議論してもらいます。年齢が近い学部生や大学院生がファシリテーターとしてサポートするなかで、最初は戸惑っていた受講生も次第に、興味を同じくする者同士の議論が面白くなるようです」

また「体感科学研究」では、39にも及ぶ最先端研究が、理学研究科、工学研究科、基礎工学研究科等を中心に受講生のために用意され、杉山教授自身も「量子振動を世界的強磁場を用いて観察しよう」というテーマで受講生を指導した。「高校の教科書で習った内容が先端研究で実際に使われていることを知り、『高校の勉強をもっとしたくなった』という生徒もいました。高校での勉強のモチベーションも上がったようで、うれしい驚きです」

受講生インタビュー

めばえ道場で議論する受講生たち

研究を体感(体感科学研究)

興味がなかった世界にも視野が広がる
 ・平松 怜彩さん(清風南海高等学校2年)

将来、医学の道に進みたくて、大阪大学で医療などに関する研究体験ができると知り応募しました。1年目で様々な分野の講義等を聴いて、放射線など、これまで興味がなかった世界にも視野が広がりました。また、難しい計算の課題も、宇宙の原理などの具体的な事象にあてはめることでチャレンジでき、自信も付きました。「めばえ道場」では、他の受講生の知識量や視点の違いに驚き、「私ももっと頑張らないと」と刺激を受けました。2年目では、再生医療を扱う研究室を選び、興味のあるテーマについて研究を始めます。毎回とても楽しくて、SEEDSプログラムに参加して本当に良かったです。

研究の世界のイメージが変わる
 ・森 陶子さん(四天王寺高等学校2年)

理系分野が好きで、将来の進路を考えるための情報を得たいと思い応募しました。1年目で自分の興味の幅が広がりましたし、ひとつの研究テーマに対して、多方面からアプローチできることも知りました。人前で話すことが苦手だったのですが、「めばえ道場」を通じて、少しずつ自ら発言できるようになり、議論することで自分の知識レベルがわかることにも気づきました。2年目では、自分のやりたいテーマについて深く学び、実際の研究も体験できるのが嬉しいです。先生方も気さくで、SEEDSプログラムに参加したことで研究の世界のイメージが変わりました。興味がある方は是非応募してほしいです。

▼隠れた科学への種(SEEDS)を発芽

2015年度の1期生131名(男子83名・女子48名)は、2月20日に行われた閉講式をもって「体感プログラム」を修了。続く「実感プログラム」には、受講生の中から28名が選抜され、自身が選択したテーマによる本格的な研究活動(全5回程度)に、今年4月から大学内の研究室で取り組んでいる。

2016年度も、2期生として新たに「体感プログラム」受講生(130名枠)を募集、理解力や考察力、問題解決力、意欲などを測る選考試験が6月に行われる。「隠れた能力を持ちながら、これまで研究を体験する機会がなかった高校生に、ぜひ応募していただき、理系研究の魅力を知ってほしいです」

▼受講生が自ら伸びていく環境を整えたい

2016年度は、夏休みを利用したスタートアップ合宿を新たに導入するという。「高校生同士が密接に交流することで他者をより理解しつつ仲良くなり、互いに切磋琢磨し、自ら伸びていく環境を整えていきたいです」

科学研究の面白さについては、「分からなかったことが、分かるようになること。推理小説の犯人探しのようなワクワク、ドキドキ感があります」と説明する。同時に「研究では、望んでいる答えと異なる結果が出るなど、失敗も多いですが、失敗を失敗と捉えず突き詰めるのが科学。そのような考え方や姿勢を、ぜひSEEDSプログラムで身につけてほしい」と笑顔で語った。



「実感プログラム」
担当教員からメッセージ

研究体験を通じ、本当にやりたいことを見つけて大学選びを

・基礎工学研究科 物質創成専攻 境 慎司 教授

私達の研究室では再生医療に関する技術の開発に取り組み、からだや細胞と相性のよいゲルを用いた研究などを行っています。再生医療などの医学分野も、実は周辺分野で開発されるさまざまな先進技術に支えられ発展しています。今回の研究体験が、自分が将来、本当にやりたいことを見つけて大学を選ぶきっかけになってほしい。研究の世界は教科書に載っていないところで進んでいて、何が起きるかわかりません。しかし乗り越えるべき壁が高いほど、楽しさややりがいを感じるものなので、それも実感してもらいたいです。

研究室には、スクリーニング中の
大量の結晶化プレートが保存されている

泳ぐ細菌の「べん毛モーター」の謎にせまる

理学研究科 高分子科学専攻 教授
今田 勝巳 — Katsumi Imada

●感染症の予防・治療などに貢献も

細菌の運動器官であるべん毛は、逆回転も可能なナノサイズの回転モーターが動かしている。生体内で最初に発見された自然の回転機構であり、ギアを切り替えるように回転方向を変え、栄養豊富な場所に移動したり、感染先を探り当てている。今田勝巳教授らのグループは、極めて高性能な「べん毛モーター」の基本的作動原理の解明や、部品の構造解析に取り組み、その成果は将来の感染症予防や新薬開発にも結びつくと期待されている。

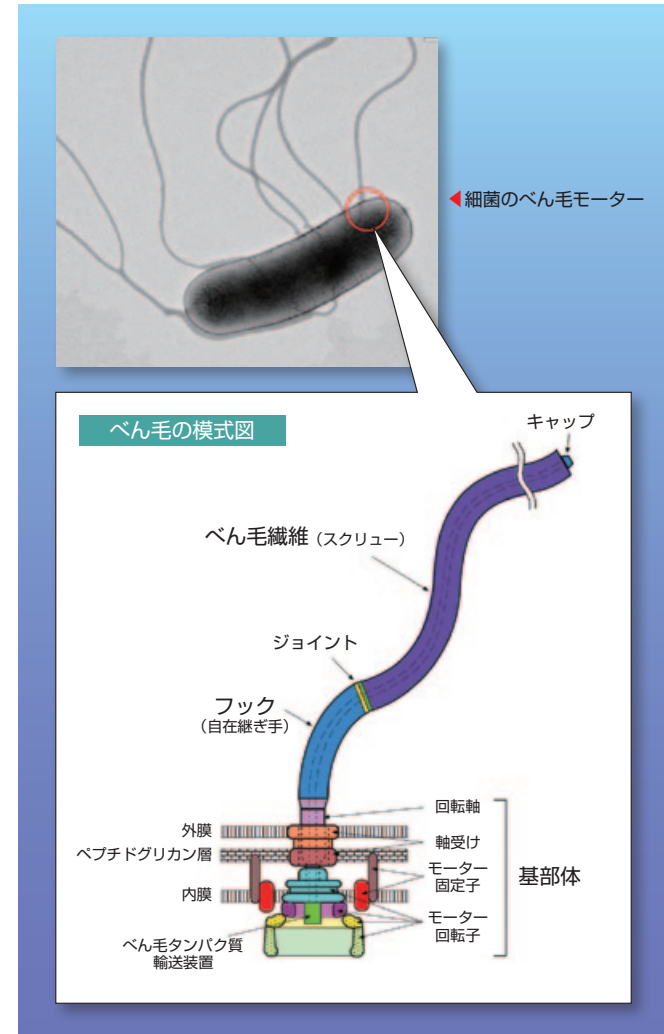
●細菌の体から伸びるべん毛を動かす分子機械

「大腸菌やサルモネラ菌など多くの病原菌は、体から伸びたべん毛で、根元にあるモーターを船のスクリューのように高速回転させて泳ぎまわっています」と、今田勝巳教授。べん毛を回転させているのは、直径約45ナノメートルのタンパク質でできた分子モーター。毎秒300回転というF1エンジン並みの速度で回り、逆回転もできる。「べん毛モーターは、生体内で初めて見つかった回転機構。あたかも機械のように動くため『分子機械』とも呼ばれています」

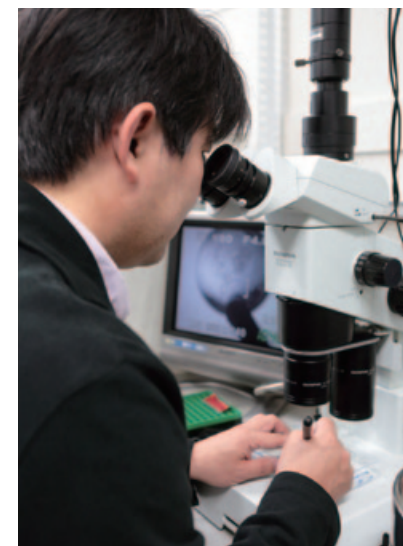
今田教授の専門は構造生物学。人間が作り出した電気モーターのような回転機構が、自然の生物のなかに存在していることを知って強い興味を持ち、以来、細菌べん毛モーターの構造と機能に関する研究に没頭している。「謎の機械が目にある時、まず部品に分解して形や構造を調べ、それらを再び組み立てて動かしてみても仕組みを理解しようとするよね。私も同様のアプローチでべん毛モーターの仕組みを調べています」

●イオン流をエネルギー源にモーターを駆動

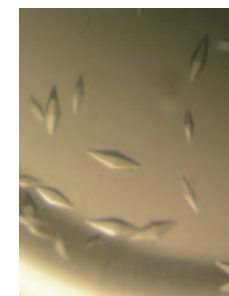
極めて高性能なナノマシンである「べん毛モーター」は、人工の電気モーターが電子の流れで駆動するように、細胞の外から内に流れるイオン流をエネルギー源として回転力を発生させている。しかし、船のような舵を持たないべん毛モーターが、どのように方向を制御し、感



染先に到達するのか。「細菌には鼻や舌に相当するセンサーがあり、周囲の物質を感知して信号をモーターに伝達します。そして、ギアを変えるようにモーターを逆回転させるのです。船のスクリューと同様、逆回転すると停止して漂い、順回転した時にたまたま向いた方向へ再び泳ぎ始めます。逆回転の頻度を変えることで繰り返し方向を修正しながらフラフラ泳ぎ、最後は感染先に辿り着きます」

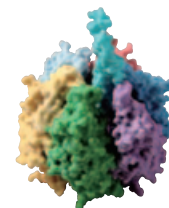


▲作成した結晶を顕微鏡で観察しながら一個ずつ採取。緻密な作業が求められる



▲べん毛タンパク質輸送装置を構成するタンパク質の結晶

▼3Dプリンタによる模型



◎「最初の目撃者」になるべく地道に研究

このべん毛モーターの部品に関しては、分子レベルでの形や構造に未だ不明な部分が多く、今田教授はX線結晶構造解析法*を駆使して検証に取り組んでいる。「試薬の種類や濃度など条件の異なる数百～数千のスクリーニング(ふるい分け)を行い、分子の集合体である結晶を作成します。できた結晶を顕微鏡で観察しながら一個ずつ採取して液体窒素で凍結し、大型放射光施設SPring-8(兵庫県)に運び、実験データを収集・解析しています」。ただ、結晶ができないことも少なくなく、「試行錯誤を繰り返しながら数を試す」地道で苦しい作業の連続。しかし、「人類の歴史上、誰も見たことがない構造の『最初の目撃者』になれた時は本当に感動します」と目を輝かせる。

*X線結晶構造解析法：物質の結晶にX線を照射することで、物質の3次元構造を知る手法

◎毒針の配送を止め、体に優しい薬剤開発へ

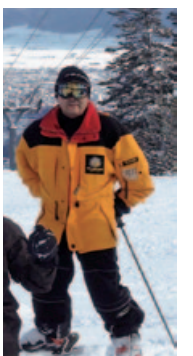
一方、べん毛モーターの機能の研究では、細胞内で作ったべん毛の部品となるタンパク質を、外に送り出して組み立てる「配送センター」のような機能がべん毛の根元にあることが分かってきた。「感染症を引き起こす病原菌は、通称『毒針』を作っています。例えばO-157であれば、腸の細胞に針を刺して病原性タンパク質を送りこみ、感染した細胞を乗っ取って増殖します。その毒針の仕組みが、べん毛モーターの部品を送り出す仕組みとほぼ同じであることがわかりました。毒針からの病原性タンパク質の送り出しを止めることができれば、病原菌が目的の細胞に泳ぎ着いても感染できません」

抗生物質を投与すれば、病原菌だけでなく腸内の善玉菌なども死んでしまううえ、耐性菌の問題も引き起こす。しかし毒針の送り出しを止めることができれば「病原菌の武器を取り上げることになります」。この研究は副作用が少なく体に優しい薬剤の開発などにもつながり、今後の成果に注目が集まっている。

◎科学者は楽観的であることが大切

研究の合間にはスキーや野球など、スポーツも楽しむ今田教授。一方で、高校時代はNASAが打ち上げた惑星探査機ボイジャーに刺激を受けるなど、元々理系の話が好きだった。「サイエンスはエンターテインメントだと思っています。わからないことを追究することが非常に面白い」

研究者にとって大切な資質について、「楽観的であること。研究はうまくいかないことの方が多いのですが、実験などで失敗したかなと思っても、『もしかしたら』と考えて検証してみることが大事。科学の世界では、何が正解か分からない状況で、こうと決めて真っ直ぐ進むことは非常に危険。細菌がべん毛モーターを何度も逆回転させてフラフラと進むようなスタイルで検証していかないと、正解にはたどり着けないと思っています」



▲スキーを楽しむスポーツ好きな面も

●今田勝巳(いまだ かつみ)
1987年大阪大学理学部卒業。92年同理学研究科高分子学専攻修了、博士(理学)。松下電器産業国際研究所研究員、大阪大学生命機能研究科助教授、科学技術振興機構(CORP)超分子ナノマシンプロジェクト・グループリーダー、大阪大学生命機能研究科准教授などを経て、2010年10月から現職。



数学を武器に
人の消費行動を解き明かす

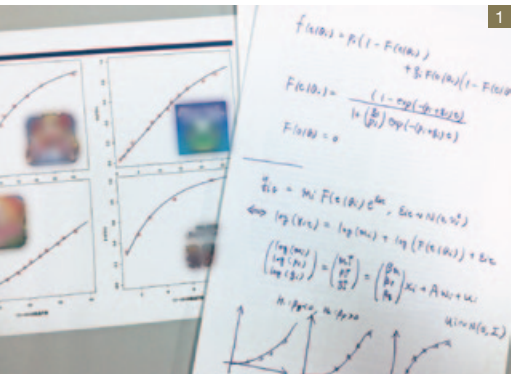
経済学研究科経営学系専攻 准教授
勝又 壮太郎 — Sotaro Katsumata

勝又壮太郎准教授は、マーケティングにビッグデータを活用し、消費行動を数理的に分析する研究を進めている。「消費者が商品選択をどのように行いかを数理的に把握することで、企業が継続的な成長を目指す道筋を示したい」と語る。

しかし、その商品選択行動は複雑だ。「例えばデザイン面では、その場で手に取る日用品などは親しみやすさ、家具などの耐久財などは味わいや印象深さが大切で、商品の性格によって「良いデザイン」は変わる」など、商品選択行動の解明には多くの側面からのアプローチが必要になる。企業からは、こうして解明した消費行動をもとにアドバイスを求められることもあり、大手マーケティング会社などから多くの表彰を受けている。

消費行動解明のためには、地道な数理的アプローチが必要になる。「人間の行動は一見再現不可能で、数学からは遠い印象がある。実際に多数のポイントカードなどから購入履歴を取り出したビッグデータは、規則性のない数字の羅列にしか見えない。しかしそこには必ず数理的なモデルが隠れている。それを解明し人の消費行動を明らかにしたい」と意欲を燃やす。また「学生時代は数学が好きではなかったが、大学で経済学に触れるうちに、使い道がわかり武器として使いこなせるようになって、数学が好きになった」と経済学者としては意外な一面も。「数学が嫌いな生徒こそ、経済学部へ来てほしい、一緒に消費行動を解明しよう」と高校生へエールを送った。

「趣味も研究です」と話すが、家庭では手料理を振る舞うなど、家族との時間を大切に。「幅広くレシピサイトなどを分析してから料理を始めます」と破顔一笑。ここでもビッグデータ解析の腕が発揮されているらしい。



■写真説明
1 アプリのゲームも消費行動を数理的に分析する対象。研究の一環として自身もプレイする
2 子ども達と遊園地で。外出して家族との時間を過ごす際に、ふと研究のアイデアを思いつくことも

●勝又壮太郎(かつまた そうたろう)
2005年筑波大学社会学類卒業。11年東京大学経済学研究科博士課程修了、博士(経済学)。大手情報サービス企業職員、長崎大学経済学部助教、准教授を経て、15年大阪大学経済学研究科准教授。日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究賞、準吉田秀雄賞、野村総合研究所 マーケティング分析コンテスト 最優秀賞など受賞多数。



今年2月に発売された著書
『競争を味方につけるマーケティング
脱コモディティ化のための新発想』
(有斐閣 2016年)

未来に輝く 研究者

染色体の原理を明らかにするため
「研究マラソン」を走り続ける

蛋白質研究所 准教授
加納 純子 — Junko Kanoh

加納純子准教授は、染色体の末端部、細胞の老化タイミングを司り生命維持に重要なテロメアと、隣接するサブテロメアについて研究している。「サブテロメアのわずかな構造異常によって、多発奇形や精神遅滞などの遺伝性疾患が発症する。この仕組みを解明したい」と熱く語る。

解明の鍵は加納准教授が新機能を発見した蛋白質「シュゴシン」だ。この蛋白質は染色体の中央部(セントロメア)で細胞分裂するタイミングを制御することで知られている。しかし、セントロメアで働くべきシュゴシンがサブテロメア領域にしばしば出現することに注目し、シュゴシンがこの領域の遺伝子群の発現維持や、複製のタイミングをも制御していることを発見した。この研究を更に進め最終的には「自身の基礎研究を深めるだけでなく、臨床も含めた大きな枠組みで疾患の予防や治療に貢献したい」と目を輝かせる。

サブテロメアは未解明部分が多く「先天性疾患だけでなく、人間の進化の秘密が隠されているかもしれない」と加納准教授は考える。「人間とチンパンジーなどの類人猿はDNAが99%一致するというが、類人猿のサブテロメアとは全く違う。サブテロメアの違いによって人間が人間になった可能性がある」と話す。なお加納准教授をトップとする研究室にはおサル「ボスざる」が鎮座している。

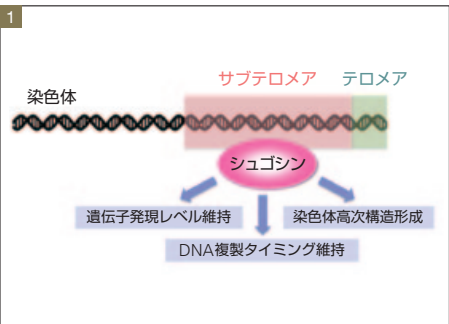
学生時代はテニスで活躍、近年はバイオリンに熱中するなど多趣味だが、殊にフィギュアスケート観戦は子どもの頃から親しみ、現在は羽生結弦選手に注目している。同選手の長期計画をもとにした練習姿勢は、加納准教授の研究姿勢とも通じる。「研究は短距離走ではなくマラソン。休まず走り続けるプレッシャーはあるが、またそれ自体も楽しみ」と力強く語る。



●加納純子(かのう じゅんこ)
1991年東京大学理学部生物化学科卒業。96年同大学院理学系研究科生物化学専攻修了、博士(理学)。同大学医科学研究所研究員、米スクリプス研究所研究員、東京工業大学生命理工学研究科助手、京都大学生命科学研究科助教を経て、2009年大阪大学蛋白質研究所特任准教授、13年同研究所准教授(細胞核ネットワーク研究室を主宰)。専門は分子生物学、生命維持活動における染色体制御機構の解明。



◀マスコットの「ボスざる」はラボメンバーを優しく見守る



■写真説明 1 染色体の概要図。末端領域の「テロメア」「サブテロメア」はヒトの健康維持に重要な役割を果たす
2 他研究室との合同歓迎会の様子



◎お客さん目線での動物園改革

天王寺動物園に転職後は、精力的に動物園改革に乗り出した。「人気の高いホッキョクグマのメスを導入したり、動物とのふれあい広場を設けました。また、近年来園の多い外国人観光客向けに、英語や中国語、韓国語での案内板も増やしています」と語る牧さんのユニフォームにも“ENGLISH a little”の缶バッジが。さらに昨夏、新たに照明設備を完備、開園時間を延長して実施した100周年記念イベント「ナイトZOO」は、9日間で13万人が来場する人気イベントとなった。

また、中・長期的な改革にも取り組む。「タヌキやキツネ、モグラなどの日本の固有種が飼えないかと思っています。都会に住む人には見たことがない動物で、教育といった面からも動物園として展示する意味があると思っています」

◎どんな勉強も役に立つ

昨年7月には大阪大学と連携して、動物園を楽しむシカケのアイデアを集めた「シカケコンテスト2015」を開催。「大学は自由な発想ができる場。コラボすることによっておもしろいことやイノベーションが生まれると思っています。動物園にはいろいろな研究材料があるので、学術的な部分で、今後も大学とジョイントできればいいと期待しています」

座右の銘は「どんな勉強も役に立つ」。大阪大学の後輩には、「どんな分野でも、取り組んでいくためには、それを支える知識を蓄えて更新していくことが大切。私の場合、就職してから学生時代には全く触れてこなかった法律や経済、財政、民法なども勉強しましたが、今になるとそれが全て生きています。勉強マインドは、大学時代に身につけておいたほうがいいですね」とエールを送った。

の世話をしなければならず、なかなか休めませんでしたね。実験機器が揃っていたわけではなかったので、研究に使う電極やデータ収集のためのプログラム、新しいシステムも全部自分で作りました。基礎工学部はある意味なんでも屋。あらゆることをやったおかげで、何をするのも怖くなくなりました」と笑う。

勉強のかたわら、趣味のトランペットを手に、軽音楽部のビッグバンドでジャズを演奏したり、4年～大学院2年では少人数でジャズバンドを結成し、地域のイベントで演奏するなど、充実した大学生活を送った。

◎東日本大震災では後方支援も

大学院の博士課程に進もうかと考えていたある日、国家公務員の採用案内を見て、試験科目に生物学があるのを知り受験、見事合格。俗に言うキャリア官僚として科学技術庁に入庁し、科学技術政策を担当した。出向も多く、原子力安全・保安院や内閣官房知的財産戦略推進事務局などさまざまな省庁で業務をこなした。「東日本大震災では、文科省の原子力支援本部のメンバーとして発生3日後に福島県に入り、県庁の後方支援にあたりました。その後、原子力発電所再稼働の基準づくりなども担当しました」

◎「動物園マニア」

「動物園マニア」になったのは「結婚したばかりの頃、妻がペンギンにはまったのがきっかけ。動物園や水族館を巡るうちに、マニアが集まるペンギン会議や動物園のあり方を考えるNPOの市民ZOOネットワークなどに関わるようになりました」

さらに、2006年には動物園マニアで競うバラエティ番組「TVチャンピオン全国動物園王選手権」(テレビ東京)に出場。見事チャンピオンに輝いた。

どんな勉強も役に立つ。
どんな分野でも、それを支える知識を蓄え
更新していくことが大切です。

牧 慎一郎

都心にある天王寺動物園からはあべのハルカスも眺めることができる

自身の経験を最大限に活かして

お客さん目線に立ち、さらに親しみやすい動物園をめざす

◎OB訪問
◎大阪市立天王寺動物園園長
牧 慎一郎 — Shinichiro Maki

開園から100年超の歴史をもつ大阪市立天王寺動物園。お客さん目線に立った取り組みがヒットし、昨年度の入園者数は前年度から約30%も増加した。園長の牧慎一郎さんは、基礎工学研究科出身。科学技術庁(現・文部科学省)などのキャリアを経て、園長に就任した異色の経歴の持ち主。「お客さん目線を心がけて、もっと親しみやすい動物園に」。動物園改革にける熱い思いを聞いた。

●牧 慎一郎(まき しんいちろう)氏
1993年大阪大学基礎工学部生物工学科卒業。95年同基礎工学研究科物理系生物工学専攻修了。同年科学技術庁(現・文部科学省)入庁。環境庁、経済産業省原子力安全・保安院、内閣官房知的財産戦略推進事務局などを経て、2014年大阪市建設局動物園改革担当部長兼経済戦略局天王寺魅力担当部長、15年4月から現職。



大学時代は、地域のクリスマスイベントでジャズを演奏(写真(上)中央:牧さん)。トランペットを手に当時を懐かしむ

◎公募を見て感じた運命

「これは自分がやる仕事、二度とないチャンスだと、思い切ってチャレンジしました」

2013年、大阪市は天王寺動物園の改善、改革を推し進めるために動物園改革担当部長を公募すると発表。それを知った牧さんは、運命的なものを感じたという。大阪大学で研究した生物工学、官僚として培ってきた行政経験、さらに幼い頃からの動物好きが原点となった「動物園マニア」。そのどれもが後押しをして応募したところ選任され、2014年7月に動物園改革担当部長に就任、昨年4月より園長を兼務した。

◎大学では生物の脳のメカニズムを研究

高校時代から理系を志望していた。「なかでも生物を学ぶのがおもしろそうだなど。最初は理学部の生物学科を目指していたのですが、基礎工学部に生物工学科があるのを知って、募集要項を読んでも魅力的に思え、第1志望に変わりました。広い視野で生物を

研究することができて、自分にはとても合っていたと思います」

大学では、生物が意識を持って運動(随意運動)する時に、脳がどのように働いているかという研究に取り組んだ。当時、神経生理学の村上富士夫教授のゼミで学ぶと同時に、健康体育部の木村實教授の研究室で、実験に励んだ。

◎なんでも屋で怖いものなしに

「助手と僕を含めた学生2人の3人で動物



動物とのコミュニケーションもお手のもの

企 業 情 報

■大阪市立天王寺動物園
(大阪市天王寺区茶臼山町1-108)



1915年、日本3番目の動物園として開園。11ヘクタールの敷地に、約200種1000点の動物が飼育されており、動物の生息地の景観を可能な限り再現した展示や、おやつタイムの実施などを取り入れている。昨年度の入園者は約173万人。ホームページ <http://www.jazga.or.jp/tennoji/index.html>

Be Ambitious! リスクを恐れず、 どんどん外に出て視野を広げて

●OG訪問

●日本ケロッグ合同会社 代表職務執行者社長
井上ゆかり — Yukari Inoue

子どもの頃、大阪で開催された日本万国博覧会(1970年)で外国への憧れを抱き、大学卒業後は男女格差のない外資系企業に就職。ビジネスの世界を持ち前の明るい性格と行動力で乗り切ってきた井上ゆかりさん。社会がグローバル化する中、学生たちに「Be Ambitious!(大志を抱け)今自分が見えている所は可能性の一部分。どんどん外に出て視野を広げて」とエールを送る。



●井上ゆかり(いのうえ ゆかり)氏
1985年大阪大学経済学部卒業。プロクター・アンド・ギャンブル・ファーマー・イースト・インク(P&G)の日本法人に入社後、North Americaマーケティングディレクターなどを経て、2003年ジャーティンワインズアンドスプリッツ株式会社(現MHD)常務取締役、05年キャドバリージャパン株式会社(後、日本クラフトフーズ株式会社/現、モンデリーズ・ジャパン株式会社)代表取締役社長、13年7月から現職。

●人生の分岐点

大阪府吹田市の千里ニュータウンに住んでいた頃、万博が開催された。「海外への憧れは万博の影響が大きいです。初めて外国の人々と直に接したのも万博でした」
小学生時代は遊びに夢中だったが、5年のとき学級崩壊が起きた。まともに授業が受けられない状態が続き、6年から塾に通うように。すると成績が上がり、中高一貫の私立神戸女学院に合格し進学。「学級崩壊がなければ公立中学に進学したでしょうから、今とは全然違う人生になっていたかも。人生の分岐点でしたね」と回顧する。



▲初代社長 W.K.ケロッグのプレート

井上ゆかり

「Happiness is a choice」
幸せは自分で選んでいけるものだと思います。

●みんなをまとめる醍醐味

神戸女学院では生来の活発さを発揮。中学1年から高校3年まで学年対抗の運動会があり、メインイベントは応援合戦。応援団長を務めた中学3年で総合優勝を果たし、高校卒業まで4年連続で優勝した。「みんなをまとめて成功する醍醐味を味わいました」と、この頃からリーダーシップを発揮していた。

●井の中の蛙

高校では放送部に入部。高校1年の時、NHKの全国高校放送コンテストに応募するため、ラジオ番組を制作。テーマは部員同士

で話し合い、「友情」にした。ところが、他の高校はどこも公害など当時の社会的テーマを扱っていた。「あらら、これはあかんと(笑)。井の中の蛙でした。世界はもっと広いのだと危機感を感じました」。国内外の名作全集を読破するなど元々読書好きだったが、城山三郎の経済小説なども熱心に読み、視野が広がった。やがて、女性も自立しないとだめだという気持ちが芽生え、「サラリーマンになろう」と大阪大学経済学部に進学した。

●恩師との出会い

大阪大学では、「それまで女子高に通っていたこともあり、阪大には理系学生や男子学生も多く、いろいろな人がいるなあと思いましたね。そのような環境で勉強できたのがよかったです」。落語研究会にも所属し、三味線も習い、学生生活を満喫した。

3年のとき、転機が訪れた。ゼミを選択することになり、金融論の蠟山昌一教授のゼミに入った。蠟山教授は当時、政府の審議会のメンバーを務めるなど金融問題の論客として知られていた。実学の大切さを教える蠟山教授の指導の下、「ビジネスの世界に入りたい」という気持ちが強まった。ただ、就職活動をするにも、男女雇用機会均等法の施行(1986

年)前。男子学生には企業から大量のダイレクトメールが来たが、女子学生には来なかった。蠟山教授には、女性にチャンスが少ない日本の企業ではなく外資系企業を強く薦められた。「当時の日本の企業に就職していたら、不公平なことが多過ぎるとすぐ辞めていたと思います。今の私があるのは、蠟山先生のおかげです」と感慨深げ。

●「WHY」を理解してもらう

卒業後、外資系の家庭用品大手、プロクター・アンド・ギャンブル(P&G)に入社。仕事は大変だった。「最初の上司はオランダ人。私は英語が話せないし、データの分析方法も分からず、レポート書いても何度も何度も赤ペンが入りましたが、丁寧に教えてもらいました」
10年後、昇進してアメリカ本社に異動。しかし、また壁にぶち当たった。周囲のスタッフをうまく動かせなかった。上司に相談すると、専門家をコーチとしてつけてくれ、コミュニケーションは格段に良くなった。「なぜその仕事をしなけ

ればいけないのか、『WHY』を理解してもらい、一緒に作り上げることが大事だと学びました」
キャリアを積み重ね、40歳で新たなチャレンジを求め別の外資系企業へ、2013年から現職に。子どもの頃以来、就任までシリアルは食べたことがなかったといい、「こんなにおいしいのか」と驚いたという。シリアル市場は急成長しており、「自然の穀物を主原料としたシリアルは、ビタミン、ミネラル、食物繊維等、栄養のバランスが満点で、忙しい朝でも手軽に食べることができる、理想的な朝食です。日本の朝食シーンにおいても、もっと多くの方々にシリアルを試していただきたい」と意気込む。

初代ビンテージポスター
「The sweetheart of the corn」▼



●失敗しても次がある

母校との連携も実現。大阪大学豊中キャンパスで、学生向けに「朝食を摂る習慣を身につけて、健康で規則正しい生活を送ってほしい」と、無料朝食セット提供に2年連続で協力した。

大阪大学の後輩たちには「若いからこそできることがある。トライして失敗してもまた次がある」とリスクを冒す大切さも説く。
好きな言葉は「Happiness is a choice」。「幸せは自分で選ぶもの。幸せは一人一人違う。今の自分は、いろいろな選択肢の中から自らが選んできた結果だから、今あることの幸せに感謝して生きていくことが大事だと思います。これまでに培ってきた経験をもとに、周りの人々の可能性を広げていくお手伝いができればと願っています」



日本万国博覧会で
オランダ館の女性スタッフと記念撮影



大学時代に所属した落語研究会での呼び名は
「大阪亭宮部(キュート)」



恩師の故・蠟山昌一教授

企 業 情 報

■日本ケロッグ合同会社(東京都港区港南2-16-4 品川グランドセントラルタワー5F)

Kellogg's

米国ケロッグ社の100%出資法人として1962年10月設立。シリアル食品の製造・販売などを手がける。「オールブラン」「玄米フレーク」「フルーツグラノラ」「フロスティ」「ココくん」など、大人から子ども向けのブランドを幅広く展開し、豊富なラインナップの製品をそろえている。



「エントランスホール」で、(中央左から)ダスキンの江里さん、大石さん、寺田さん、(左端)OUT+Vの三輪さん(右端)下田さん

■大阪大学と同じ吹田に立地する「喜びのタネをまく」企業

昨年10月に開設したばかりの「ダスキンミュージアム」は、地下鉄江坂駅から西へ10分ほど歩いた住宅街の中にある。「ここがダスキン創業の地です」と、広報部の江里雅博さんが出迎えてくれた。リポーター役の三輪小夏さん(外国語学部3年)とビデオ撮影担当の下田啓太さん(基礎工学部3年)は、入ってすぐ正面の壁に据え付けられた巨大なドーナツのオブジェに「おいしそう」と目が釘付けに。「ダスキンは『喜びのタネをまこう』をスローガンとしています」と江里さん。「利益追求だけでなく、世の中に貢献し、人に喜んでもらいたい。展開する掃除と食の両事業は、その想いで結びついている。創業者の精神が、今も脈々と受け継がれています」と説明する。

■日本に「ドーナツ文化」を定着させる試み

まずは1階の「ミスドミュージアム」を見学。ここではミスタードーナツの歴史や懐かしいドーナツ、グッズの数々を紹介している。大阪大学豊中キャンパス近郊にあるミスタードーナツ箕面ショップは、1号店として1971年にオープン。開店初日だけで1460人もの来店があったという。創業時は掃除事業を展開していたダスキン。そこで三輪さんが「掃除用具のレンタル会社が外食産業に参入した理由は？」と聞くと、「創業者がアメリカで展開されていたミスタードーナツを食べ『こんなにおいしいドーナツをより多くの人に食べて喜んでもらいたい』と日本への展開を決断しました」と江里さん。

奥のコーナーには、これまで開店した1900

▼阪大から約10キロの距離にあるダスキンミュージアム



●学生体感! ダスキンの「キレイ」と「おいしい」

阪大と同じ地域に本社、1号店、ミュージアムを持つ企業

株式会社ダスキン

全学ディスプレイシステム「O+PUS」のメディアミックス企画第15弾。今回は、学生映像制作サークル「OUT+V」のメンバー2人が大阪府吹田市にある「ダスキンミュージアム」を訪ねた。1963年に大阪で創業以来、「掃除」と「食」の二つを軸として、暮らしに新たな喜びを提供し続けてきたダスキン。「喜びのタネをまこう」という創業者・鈴木清一さんの想いを今に伝える展示を見学した。

DUSKIN
喜びのタネをまこう

■株式会社ダスキン(大阪府吹田市豊津町1-33) 1963年に創業。フランチャイズシステムによる掃除用具のレンタル事業を全国で展開し、1971年にはミスタードーナツ事業を導入。日本初の複合フランチャイズ企業として、現在は環境衛生からフードサービスまで様々な業態を手掛けている。「ダスキンミュージアム」は10～16時間館、月曜定休。入館無料(ドーナツ手作り体験は要予約、500円)。現在、ダスキンに勤務する大阪大学の卒業生は10名。



▲懐かしいドーナツ、グッズが並びミスドミュージアムの展示

店舗以上の写真が壁から天井まで一面にズラリ。三輪さんは外国語学部生らしく、海外のミスド事情について興味津々で質問していた。

■「魔法のぞうきん」で辛い家事から解放

続いて、2階の「おそうじ館」へ。昔の掃除道具などを展示する「おそうじヒストリー」や、空気中のほこりを実際に目で見ることが出来る「おそうじスタジオ」といったコーナーがある。部屋の掃除に役立つ豆知識も盛りだくさんだ。

「社名の由来は、ほこりの英語である『ダスト』と日本語の『ぞうきん』を合わせたもの

◎学生によるINTERVIEW——先輩に聞く

大学での異文化経験が今に生きている



●寺田 豊さん
(1988年旧大阪外国語大学卒業)
社長室折りの経営研究所



●大石 純子さん
(1998年旧大阪外国語大学卒業)
クリーン・ケア開発本部
外国人家事支援人材受入PJ

——ダスキンに就職された理由は？

大石 まず、地元で働くという希望が叶う在阪企業であったこと。あとは長く働き続ける上で、社会の役に立つ仕事をしたかったからです。

寺田 お客様と社員の幸福に価値を置き、人を大事にする社風が一番の魅力で、自分に合っていると思いました。

——現在は、どのようなお仕事を？

です」と聞いた三輪さんはびっくり。「世に送り出した『化学ぞうきん』は、水を使わない拭き掃除を可能にし、『重労働から解放された』と主婦たちにとっても喜ばれました」というエピソードを聞き、「まさに『魔法のぞうきん』だったんですね」と感心していた。

■ダスキンと社会・大阪大学の繋がりに納得

「事業を通じて、日本に新しい文化を創出する」との熱意に触れた三輪さんと下田さん。インタビューを終えた後、三輪さんは「元々ミ

スドのファンでしたが、阪大に近い箕面店が初出店舗だと知り、より身近に感じました。また、同じ外国語学部の先輩方には、もっと様々なことに挑戦しようと背中を押してもらいました。下田さんは、「掃除と食が『人々の喜び』という理念でつながっているのだと知って納得。社会に貢献するという視点の大事さを学びました。先輩方の話は少し耳に痛かった部分も。苦手なことですが、人との交流の輪を広げていきたいと思いました」と取材の感想を話した。



▲(左)おそうじ館でモップやマットに使用されている「吸着剤」の説明を受ける
(右)おそうじスタジオでは掃除したい場所に合わせた最適な掃除道具を体験できる

出していたので、自然に海外への垣根が低くなったのは、外国語学部生(旧外大生)ならではの貴重な経験ですね。

寺田 英文タイプクラブで副部長を務めていました。メンバーは多い時で80人ほどだったので、交流を大きく広げることができました。リーダーシップといった、対人関係の勉強をさせてもらったと思います。

——就職活動についてなど、後輩へのアドバイスをお願いします。

大石 最近は学生に即戦力を求める風潮を感じますが、若い時はもっと時間をかけて、学ぶことを楽しんでほしいです。何の役に立つのか分からないことでも、思い切ってやれば、視野が広がりますし、絶対に後で生きてきます。

寺田 バイトや部活、長期の旅行など、学生時代にしかできないことに打ち込んでほしいです。また、仕事は思い通りにならないことも多いです。そういった困難も乗り越えられるように、企業選びの際には自分に合った社風かをしっかり見極めることが大事だと思います。

●学部学生の科学の祭典で自主研究の成果を競う

全国最多 サイエンス・インカレ、6組7人受賞



左から井澤さん、大谷さん、山川さん、西尾総長、小林理事・副学長、中島さん、新貝さん

理系の学部学生が自主研究の成果を発表する「第5回サイエンス・インカレ」(文部科学省主催)が3月5、6日に神戸国際会議場で開催され、全279組の応募者中、大阪大学からは全国最多の6組7人が表彰された。そのうち、5人が西尾章治郎総長、小林傳司理事・副学長に受賞を報告、喜びを語り合った。

西尾総長から自主研究のきっかけを尋ねられ、タンパク質の立体構造の仕組みを研究した大谷さんは「学部独自の研究プログラムを履修していましたが、履修期間内に研究が終わらず、このテーマでもう少し自主的に研究してみようと思いました」と振り返る。また、太陽光に注目し光吸収率の高い素材を研究した山川さんは「環境に優しいエネルギーに興味があり、研究を始めました」と話す。

続いて、サイエンス・インカレに参加し得られたことを問われると、山川さんは「違う分野の人たちと交流して意識の高さを実感することができ、一層やる気になりました」。「感染予防の啓発活動と実態把握の実施を行ったのですが、他分野の人たちからいろいろなアドバイスをいただき、新たな課題を発見できました」と中島さん・新貝さん。形状に合わせたボケないプロジェクションマッピングの研究を行った井澤さんは「どうしたらわかりやすく説明できるのかを考えるいい機会になりました」と話し、それぞれの表情には充実感が伺えた。

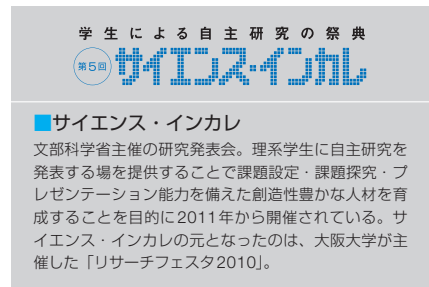
「同じようなことを研究しても意味がない。自分なりの分析で結果を出すオリジナリティーを意識しました」と自主研究で心がけたことを話

す山川さん。大谷さんも「実験結果が失敗かなと思った時にも、先生や先輩に見てもらい違った視点でアドバイスをもらうようにしました」自主研究には、「没頭すると、暗い部屋で、スクリーンに映し出される映像をずっと1人で眺めていることが多いです」(井澤さん)と語るように、忍耐強さも必要だ。

一方、研究の合間には、「子供を対象にした化学実験教室の補助のアルバイトをしていて、とても楽しく勉強にもなります」と大谷さん。新貝さんは「ボランティアサークルで、週に1回は養護施設の子供たちと接しています」。それぞれがオフタイムでも、自分の目標に向かって努力を続けている。

今後について、井澤さんは「研究成果を商品開発にまでつなげたい」と意気込む。

小林理事・副学長は「研究の楽しさを見つけることはすごく大事。これをきっかけにますます研究を深めてほしい」と激励。井澤さんは「分かりやすい資料作りと説明を心がけて」、大谷さんは「研究が何の役に立つのかを分かりやすく伝えるのが大事」とこれから自主研究に取り組む後輩にエールを送った。



サイエンス・インカレ

文部科学省主催の研究発表会。理系学生に自主研究を発表する場を提供することで課題設定・課題探究・プレゼンテーション能力を備えた創造性豊かな人材を育成することを目的に2011年から開催されている。サイエンス・インカレの元となったのは、大阪大学が主催した「リサーチフェスタ2010」。

受賞者及び研究テーマ
(※学年は受賞当時)

●【サイエンス・インカレ奨励表彰】

- 工学部応用理工学科4年 山川若菜さん
「冷却エネルギー不要の熱音響冷却システムを目指した電磁波吸収材の作製」
- 理学部化学科4年 野本哲也さん
「微量試料を用いた熱伝導度測定手法の開発」
- 工学部地球総合工学科4年 藤木 昂さん
「高密度常時微動計測に基づく2014年長野県北部の地震における白馬村神城地区での地震動の広域評価」

●【各協力企業・団体賞】

- 〈ファーウェイ賞〉(華為技術日本株式会社)
基礎工学部システム科学科4年 井澤英俊さん
「適応的フォーカススweep投影によるプロジェクタの被写界深度の拡張」
- 〈エア・リキード賞〉(日本エア・リキード株式会社／株式会社エア・リキード・ラボラトリーズ)
理学部化学科3年 大谷結子さん
「タンパク質の翻訳後修飾を考慮した私なりのフォールディングドグマ」

●【サイエンス・インカレ・アンバサダー賞】

- 医学部保健学科2年 中島早紀さん、新貝桃佳さん
「一般住民を対象とした風邪、インフルエンザ感染予防の実態把握と手洗い啓発活動の効果についてのアクションリサーチ」

▲ポスター発表資料と記念品

第6回(平成27年度)

日本学術振興会育志賞 阪大生2名が受賞

●さらなる飛躍を目指して研究者の道を進む



▲授与された賞牌と賞状
▲3月2日(水)に行われた授賞式で。ライアンさん(左)

文学研究科のライアン ジョセフさんと医学系研究科の余越 萌さんが、優秀な大学院博士後期課程の学生を対象に授与される「日本学術振興会育志賞」を受賞する栄誉に浴した。研究者としての今後が期待される2人に、それぞれの研究や夢を語ってもらった。



▲ライアン ジョセフさん



▲余越 萌さん

鉄製武器の形態の特徴や製作技術、分布などから、大和政権の成立過程を実証的に解明する研究を進めるライアンさん。考古学のフィールド調査や出土品の整理作業などで忙しい日々を過ごす。「文献に止まらず、日本各地の遺跡や博物館などに足を運び、『自分の目で確かめる』ことを大事にしています」と話す。

ライアンさんは、理論先行型の海外の考古学研究に比べ、精緻な研究法や世界に類を見ない充実した考古資料に裏付けられた日本の実証研究に惹かれた。だが、英語の情報が少なく、日本の状況を実地で学ぶ必要性を感じ、来日した。

米国出身のライアンさんにとって、日本語文献による研究は苦労も多かった。しかし、「海外でどのような資料が求められ、どうまと

ライアン ジョセフさん—— Joseph Ryan
●文学研究科文化形態論専攻博士課程1年(受賞時)
鉄製武器の生産と流通からみた日本古代国家形成過程の考古学的研究
余越 萌さん—— Moe Yokoshi
●医学系研究科医学専攻博士課程3年(受賞時)
神経変性疾患発症に関与するAtaxin-2のRNA代謝における機能解明

育志賞

天皇陛下の御即位20年にあたり、社会的に厳しい経済環境の中で、勉学や研究に励んでいる若手研究者を支援・奨励するための事業の資として、陛下から御下賜金を賜り創設された。

めたら役立つか、という視点を持っていることが自分の強み。海外と日本の架け橋になりたい」と熱く語る。「海外では十分注目されてこなかった日本考古学の研究成果を、理論応用できる形で国際発信し、世界の古代国家形成論研究に活かす必要性を感じています」 「受賞は、研究実績への評価というより、将来の可能性に対して叱咤激励をいただいたものだと思います。肝に銘じて、より一層研究に励みたい」と決意を新たにしました。

一方、筋萎縮性側索硬化症(ALS)やパーキンソン病などの神経変性疾患の発症の鍵を握る蛋白質の機能を解明した余越さんは、「操作が煩雑で技術的に難易度が高く、世界でも限られた研究室のみで実施されている手法を2年もの試行錯誤の末、確立しました。周りに経験者がいなかったため、細かい技術的な

コツなどが分からず、途中で諦めかけたこともありましたが、指導教員の河原行郎教授や研究室の先輩からも手厚いご指導を賜り、神経難病の病態メカニズムに大きく迫る研究ができました」と振り返る。

秋篠宮両殿下がご臨席された授賞式は、「両殿下が受賞者1人1人しっかり目を見てお話くださっただけでなく、研究内容も詳しくご存知で、感銘を受けました。ただただ光栄で感無量です。今後も日本のために働きたいと気持ちを新たにしました」

今後については、「神経変性疾患の新しい研究領域を牽引し、難病解明、治療法へとつなげていきたい。「研究のいろは」だけでなく、大学院教育についての姿勢・考え方も学ばせていただいた、河原教授のようにすることが目標です」と夢を語る。



▲余越さん(左)と河原教授(右)

弓道部 全国七大学総合体育大会・男女団体全勝優勝



28センチ先の的目かけ
勝負にこだわった1本

昨年の全国七大学総合体育大会(七大戦)で男女とも全勝で団体優勝、個人戦でもそれぞれ優勝という創部以来の快挙を成し遂げた大阪大学弓道部。今季も「もっと上」(リーグ昇格)へ狙いを定め、練習に励んでいる。



工学部4年
荒木伸太さん



医学部3年
清水美里さん



工学部3年
福山篤史さん



▲弓道場に飾られている数々の優勝杯



▼弓道は「チームプレイ」

28センチ先にある直径36センチの的に向けて弓を引き、矢を放つ。弓道は高度な技術と同時に強いメンタルも必要だ。孤独な戦いと思われがちだが、「試合に至るまでの過程は、周りの人との関わりが大切」と昨年度男子主将を務めた荒木伸太さん(工学部4年)。一緒に練習することで、仲間の長所短所を指摘しあって互いに向上していくチームプレイの要素もある。

弓道部は創部から半世紀以上の歴史をもつ。部員の減少で存続が危ぶまれた時期もあったが、最近では、勧誘の成果もあり、再び



部員数が増えてきた。復調ムードの中、ついに大きな成果を残した。

「隙を見せない」。昨年、荒木さんが掲げた目標だ。「日常生活や練習で気を引き締めることが運やツキを呼び込む」。技術向上だけでなく、部員同士の上下関係や礼節など「武道としての弓道」も極めることで勝ちに繋げようとした。迎えた七大戦は「いい経験を積みればいい」(荒木さん)と無欲で臨んだのが功を奏し、男女とも全勝で団体優勝。前年度7位(男子)、4位(女子)から大躍進を果たした。さらに、清水美里さん(医学部3年)と近藤景勝さん(工学部3年)は個人戦でも優勝した。

▼勝利の秘訣

今年度の男子主将、福山篤史さん(工学部3年)が掲げたスローガンは「勝負にこだわる」。関西学生リーグ戦で「あと1本」で敗れた悔しさを糧に、練習でも試合時のような緊張感に

近づけようと「練習の最後に『勝負にこだわった1本を引く』機会を設けました」。また、平日夜の少人数練習を全体練習に変えた。清水さんは「自分の感覚に頼って射ることが多いので、いろいろな角度からのアドバイスは役立つし、他の部員に指導することで自分も気づくことがあります」と勝利の秘訣を語る。

今年度の目標は、「男子、女子ともリーグ昇格」(福山さん)、「個人でも優勝を」(清水さん)。今年の“的”はもう定まっている。

▼階段状にうまくなる

弓道の魅力について、「練習すれば曲線状にうまくなる他のスポーツと違い、弓道はいくかの拍子で階段状に急激にうまくなる競技」と荒木さん。福山さんは「試行錯誤の末、うまく弓が引けるようになる、その瞬間が最高です」と語る。

* (ページ右上のロゴは、弓道部が代々使用しているロゴ)

OPEN CAMPUS

「阪大ってどんなところ？」を
オープンキャンパスで解決！

受験生のみなさんを夏のキャンパスで
お待ちしております！

開催日時	吹田キャンパス	豊中キャンパス	箕面キャンパス
8月4日(木)	人間科学部		
8月9日(火)	工学部	文学部	
8月10日(水)	薬学部	法学部 理学部	
8月11日(木)			外国語学部
8月16日(火)	医学部医学科		
8月18日(木)	歯学部	経済学部 基礎工学部	
8月19日(金)	医学部保健学科		

◎ 大阪大学オープンキャンパスは事前の参加申込みが必要です。

▼ 申込・実施内容の詳細：< <http://www.osaka-u.ac.jp/ja/admissions/guidance> >

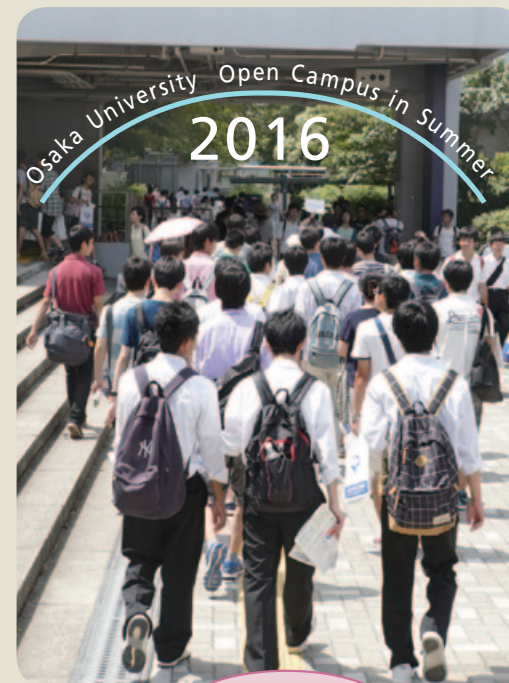


オープンキャンパスなどの
動画はCampus Viewから
見ることができます



▲阪大公式マスコットキャラクター
「ワニ博士」

<http://www.osaka-u.ac.jp/sp/campusview/>



Campus Viewを
見てみよう！



春のオープンキャンパスに中高生ら集う



いちよう祭初日の5月1日(日)、昨年に続き2回目となる「春のオープンキャンパス」を実施し、中学生・高校生ら約1300名が参加しました。

当日は大学説明会や研究室のポスター展示のほか、143もの研究室を開放し「研究室スタンプラリー」を実施しました。参加した生徒は「夏は夏期講習で忙しいので、GW中の開催はありがたい」「興味ある分野の研究室を見ることができ、研究のイメージがつかめた」など、満足した様子でした。

◀ 研究室のポスター展示の様子

「お笑い」で深めた阪大ファミリーの絆

●11回目のホームカミングデイも大盛況

いちょう祭初日の5月1日(日)、豊中キャンパスで「第11回大阪大学ホームカミングデイ」が開催され、大阪大学・大阪外国語大学OB・OG、在学生、保護者、教職員などの阪大ファミリー約500名が集いました。落語家の林家染雀さん(1992年文学部卒)による落語や、作家・医師の久坂部羊さん(1981年医学部卒)らによるトークセッションと、笑いが絶えない会となりました。その熱気は懇談会でも続き、久しぶりの再会を喜びあい、阪大ファミリーの絆も新たに深まりました。



▲林家染雀さんによる落語で会場は笑いの渦に



◀トークセッションでも会場は大盛り上がり

夏の岡山で「つながり直し」ませんか

大阪大学の集いを「岡山」で初開催します



▲「大阪大学の集い(東京)」の様子(2015年12月)

毎年12月に東京で開催の「大阪大学の集い」を初めて岡山でも開催します。阪大ファミリーの皆さん、楽しい集いで「つながり直し」ませんか。中国・四国エリアはもちろん、各地からのご参加、お連れ様と一緒に大歓迎です。ご家族・ご友人お誘いあわせのうえ、ぜひお越しください！

【大阪大学の集い(岡山)】

日時 8月20日(土) 15:30～

会場 岡山コンベンションセンター イベントホール(JR岡山駅直結)

講演会 15:30～
●大阪大学総長による近況報告
●大阪大学同窓会連合会会長によるあいさつ
●吉川秀樹 大阪大学理事・副学長による記念講演
『「洪庵のたいまつ」を継ぐ』

懇談会 16:45～ (会費3,000円)
※当日は臨時託児室を設置します
※申込方法などの詳細は大阪大学ホームページをご覧ください。

大阪大学の集い(岡山) 検索

お問い合わせ先 卒業生室
TEL:06-6879-7196 E-MAIL:alumni-info@ml.office.osaka-u.ac.jp

上海にも広がる大阪大学の輪！

●大阪大学上海同窓会・咲耶会上海支部合同同窓会を開催



中華料理に舌鼓を打ちながら思い出話に花が咲きました▶



4月6日(水)、中国・上海市内のレストランで大阪大学上海同窓会・咲耶会上海支部合同同窓会が開催され、同窓生、大阪大学教職員等42名が旧交を温めました。

同窓会では、岡田健一在上海日本国総領事館首席領事、東和男大阪大学上海同窓会前会長、伊藤俊彦咲耶会上海支部会員及び西尾章治郎総長の挨拶等が行われました。その後、参加者らは歓談しつつ親交を深め、盛会のうちに終了しました。

大阪大学では海外で活躍している同窓生の輪を広げるため、海外拠点を中心に同窓会を開催しています。

〈今後の主な海外同窓会の予定〉

■北米同窓会10周年記念講演会・同窓会

【日時】9月10日(土)午後～(現地時間)

【場所】DoubleTree by Hilton Campbell (サンフランシスコ・シリコンバレー地区)

阪大での思い出を胸に、新たな旅立ちへ

●留学生修了パーティーを開催



3月14日(月)、外国人留学生修了パーティーを千里阪急ホテルで開催し、ホストファミリー、各国総領事館の方々等も含めて約240名が参加しました。このパーティーは毎年3月に本学を修了(卒業)する外国人留学生とそのご家族を招待し、開催しています。

参加した留学生からは、「阪大の学生はフレンドリー」「留学生相談室のおかげで安心して学生生活を送ることができた」などの声が聞かれ、阪大での思い出や進路について語り合い、決意を新たにしていました。

受賞・表彰

平成28年春の褒章・勲章

瑞宝中綬章

石田 久名誉教授(文学研究科)
谷口直之名誉教授(医学系研究科)
樹下行三名誉教授(工学研究科)
西原 浩名誉教授(元附属図書館長・工学研究科)
岡田東一名誉教授(元産業科学研究所長)
中岡省治名誉教授(大阪外国語大学)

瑞宝双光章

土井 司元医療技術部長(医学部附属病院)

瑞宝単光章

生田道夫元自動車運転手(工学部)

平成28年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰

科学技術賞(開発部門)

加藤直三名誉教授(工学研究科)
関口清俊寄附研究部門教授(蛋白質研究所)

科学技術賞(研究部門)

山内和人教授(工学研究科)
藤井英俊教授(接合科学研究所)
宮永憲明教授(レーザーエネルギー学研究センター)

科学技術賞(技術部門)

関野 徹教授(産業科学研究所)

科学技術賞(理解増進部門)

齊藤貴浩教授(経営企画オフィス)

若手科学者賞

堀 雄一郎准教授(工学研究科)
劔 隼人准教授(基礎工学研究科)
秦 吉弥助教(工学研究科)
久武信太郎助教(基礎工学研究科)

「読売テクノ・フォーラム ゴールド・メダル賞」受賞

岡田随象教授(医学系研究科)

「平成27年度化学工学会賞 研究賞(玉置明善記念賞)」受賞

大政健史教授(工学研究科)

「第70回(平成27年度)日本セラミックス協会賞学術賞」受賞

関野 徹教授(産業科学研究所)

「平成27年度日本接着学会論文賞」受賞

関野 徹教授(産業科学研究所)

「有機合成化学協会賞」受賞

笹井宏明教授(産業科学研究所)

「日本心理臨床学会奨励賞」受賞

野村晴夫准教授(人間科学研究科)

「電気学会第72回電気学術振興賞進歩賞」受賞

牛尾知雄准教授(工学研究科)

「認証・セキュリティ、行動解析に関する第2回IEEE国際会議最優秀査読者賞」受賞

横原 靖准教授(産業科学研究所)

「平成27年度日本解剖学会奨励賞」受賞

近藤 誠助教(医学系研究科)

「第3回日本歯科技工学会学術賞」受賞

峯 篤史助教(歯学研究科)

「第13回有機合成化学協会関西支部賞」受賞

竹中和浩助教(産業科学研究所)

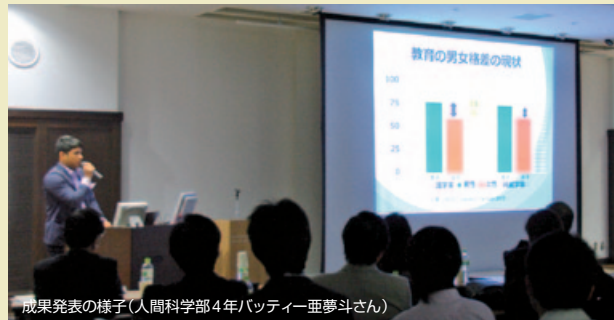
「第13回全国大学生環境活動コンテスト(エココン2015)」入賞

環境サークルGECS McK班

●学部学生による 自主研究奨励事業成果発表会

学部学生の研究マインドを後押し

——13の学生グループが受賞——



成果発表の様子(人間科学部4年バッチー亜夢斗さん)



▲全学選抜自主研究成果発表会

「教わる」から「自ら学ぶ」へ学生の意識を転換するため、学部学生の自主研究を奨励する事業を大阪大学未来基金の支援によって実施しており、その成果

発表会が5月2日(月)に大阪大学会館で開催されました。

発表会では、各学部等から選抜され、優秀賞を受賞した13グループがユニークな発表を行い、学部生とは思えないレベルの高い自主研究に出席者は驚きの様子でした。企業賞(三井住友銀行賞)を受賞した一人の面矢香琳さん(経済学部2年)は「研究だけでなく人前で発表することの大変さも学びました。学会発表できるような研究になるよう、これからも頑張ります」と自主研究の感想を話しました。今年度も引き続き、本事業で学部学生の自主研究を応援します。

Schedule——◆イベント情報

●MEIメディカルデバイスデザインコース

日程：7月2日(土)～10月29日(土)

場所：大阪大学中之島センター

(大阪大学医学・工学研究科東京ランチでLIVE中継)
参加方法、講義スケジュールなどの詳細は、
<http://mei.osaka-u.ac.jp/mdd>をご覧ください。
※既に募集期間を過ぎておりますが、受講可能な講義もありますので、
上記ホームページをご確認のうえ、お問合せください。

[問い合わせ先]：大阪大学MEIプロフェッショナルコース事務局
E-mail: mei-pro@mei.osaka-u.ac.jp

●平成28年度「教員のための英語リフレッシュ講座」

日時：8月1日(月)～8月5日(金)

場所：言語文化研究科他(豊中キャンパス)

講演者：言語文化研究科教員他

参加方法：言語文化研究科言語文化専攻のホームページ

(<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/lc/>) から

講習料：10,500円

[問い合わせ先]：言語文化研究科・外国語学部豊中事務室総務係

E-mail: genbun-soumu@office.osaka-u.ac.jp TEL: 06-6850-5855

▶大阪大学では、この他にも一般向けの催しを多く開催しております。
詳しくは大阪大学ホームページのセミナー/シンポジウム情報をご覧ください。

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/seminar> 阪大セミナーシンポ 検索

大阪大学
未来基金

ご寄付いただきました皆さまへ

大阪大学未来基金へのご寄付に対しまして、心よりお礼申し上げます。
ご寄付いただきました皆さまへの感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。
引き続き、大阪大学の未来に向けたご支援をよろしくお願い申し上げます。

2016年6月
大阪大学 総長 西尾 章治郎

▼2016年2月～2016年4月ご寄付分を掲載 ＜寄付実績＞4,259,393,801円／17,305件(2016.4.30時点)

●個人寄付者ご芳名（敬称略・五十音順）713名

うち掲載を希望されない方 194名

青木佳壽子	上田 和光	沖田 康子	北川 勉	真田 昌爾	田中 利哉	鍋倉 賢郎	平石 裕之	松重 操	門馬 慎
青木 順子	上田 真之	荻野 秀樹	北口 正孝	佐野 雅人	田中 稔也	難波香能子	平石 裕介	松下 明広	八木 昭彦
赤木 優太	植田 佳男	荻山 圭一	北澤 俊彦	澤井 弘行	田中 弘晃	難波 輝之	平尾 和之	松下 秀明	八木 雅三
明間 博	上地 哲雄	奥 英幸	北野 茂樹	澤上 豊	田中 将陽	難波 正	平松 力	松野 正昭	安井 寛治
秋田 正人	上野絵里奈	奥田 拓文	北野原良生	澤田 学	田中美穂子	西井 勇人	平山 孝	松村 映歩	安田 海都
秋山 文孝	植野 健司	奥田 泰史	北林 明憲	澤村 真人	田辺 淳一	西尾 暁	平山 智貴	松本 和久	安田 雅人
秋吉 圭輔	上村 建士	尾崎 浩彦	北村 史朗	塩谷 京子	谷口 武	西垣内勝行	廣浦 健	的場龍太郎	矢田 勉
日外 雅人	牛尾 誠夫	尾島 清高	橘高 康人	塩見 幸雄	谷本 昌也	西川 亨	馬淵 誠也	山口 博文	山口 惠美
東 克己	牛谷 恵史	小田 孝明	衣川 東	志賀 恒元	田端 豊久	西川 祐樹	福井 尚之	丸岡 漢	山口 泰生
安達美智雄	内田 徹	越智 雅伸	木下 圭太	篠原 秀樹	玉井 啓三	西田 平和	福田 公子	三浦 太一	山口 嘉温
足立三和子	内田 正敏	尾西 弘之	木村 浩二	柴田 卓	玉木 信也	西田 幸夫	福田 治子	水井 順一	山口 和義
尼木 基峰	内山 哲也	小野 勝弘	木村 達	芝野 悦三	玉村 一男	西田 良男	福家 範浩	水島 保孝	山下 菊夫
天野太球磨	梅田健太郎	面出 望	木村 真依	清水 真人	津賀 一宏	西野 友浩	藤井 彰倫	道盛 方紀	山下 朋子
荒木 和夫	浦上 民男	表 幸男	木村 里咲	下畑 昌樹	塚原 聡	西原 弘	藤江 啓子	三井 大輔	山下 秀登
荒牧 典俊	漆崎 海月	加賀 直一	教村 光枝	上仁 義一	塚本祐二郎	西村 一郎	藤岡 宏幸	南 俊光	山下 浩
飯田 朋子	江川 圭二	賀川 進	清本 尚賢	杉浦 好満	月原 富武	西村 正	藤田 尚徳	南出 恵吾	山田 明
井川 博	榎本 哲也	垣内 静雄	際 健二	鈴木 秀之	辻 秀一	新田 勸	伏谷 建造	三村 高志	山田 周平
池内 勝哉	戎田 千秋	寛 朗	楠本友里子	鈴木 裕之	対馬 悠貴	丹羽 一弘	藤道 宗人	宮垣 昌明	山田 典克
池内 雅登	海老原利一	籠 賢次	工藤 幸徳	鈴木 元子	辻本 雄一	丹羽 英人	藤村 育雄	宮木 義行	山田 俊輔
石井 駿徳	江森 貴大	笠谷 忠則	梶座 清光	鈴木 康司	土屋 真平	野崎 隆司	藤村 光甫	三宅 正人	山本 純也
石井 裕二	大井 静人	榎林 義雄	久保 博嗣	鈴木 義彦	堤 順	野田美代子	藤村 吉男	三宅 昌之	山本 浩之
石井 幸広	大内 幹雄	柏原 照喜	久保井亮一	須多 正人	坪井 俊郎	野田 嘉一	藤本 悠斗	宮下 邦彦	山本 陽一
石神 裕司	大浦総一郎	倉田 規正	砂田 明彦	出口 忠昭	野村 健一	野村 健一	藤本 雄大	宮嶋 邦夫	山本 喜博
石川 元一	大川 和愛	片岡 千鶴	黒木 満	関 忠行	寺岡 一仁	野本 健斗	藤森 勲	宮永 俊明	幸 芹奈
石川 裕夏	大久保和徳	片山 隆仁	黒田 勝哉	関野 正	寺岡 秀章	橋本 信吾	藤原 淳一	宮元 聡	横井 弘昌
石田 秀之	大崎 広光	勝山 博美	黒田 悠介	妹尾 克己	寺門 正和	橋本 隆正	藤原 裕樹	宮本 士郎	横田 佳洋
石破世志男	大下 浩司	加藤 弓弦	桑野 幸徳	千田 純一	寺西 義浩	長谷川 保	船崎 秀樹	宮本 憲昌	横森 巖
石橋 大士	大島 幹雄	金井 誠	監物 諒相	曾我部孝史	徳村 和範	秦 将也	船津 定見	宮本 芳樹	横山 勝敏
石原 健司	大嶋 唯希	金谷 高義	顧 蔚紅	園山 義明	肌羽 宏和	肌勢 和由	古川 天菜	明神 聖子	横山 邦彦
石原 忠義	大田 哲也	鐘ヶ江友幸	香西 正博	田賀 志平	富沢 桂	畑田 耕一	古川 邦彦	吉川 邦彦	吉川 浩二
磯部 正則	大田 敏一	金子 武義	小阪 新造	高尾 卓	豊島 健三	畑田 元義	星野 弘哲	三好 真吾	好川 文菜
市村 秀樹	太田 紀一	兼子 泰久	小島 克雄	高須 教夫	豊田 修武	服部 道彦	細川 卓也	村尾 一宏	吉川 守
伊藤 歩	大谷 賢一	金戸 直輝	児玉 功	高田 憲作	豊田 眞司	英 貢	保知 一也	村上 光延	吉田 武司
伊藤 英憲	大西 良和	加納 洋一	後藤 昭夫	高橋 健登	鳥居 明人	花屋 儀久	堀 公彦	室谷 誠治	吉田 信之
伊藤 雅俊	大貫 昭彦	鎌谷 博善	小西 政治	高橋 洸	仲 洋二	濱川 圭弘	堀 弘平	茂庭 昌弘	吉田 政博
糸澤 優博	大沼 響	亀井 崇	小林 淳志	高橋 節子	長尾 修爾	浜田 寿雄	堀内 司朗	森 勇	吉田 健也
井上 郁夫	大野 一幸	亀田 清	小林 和弘	高橋 有三	長尾 年通	浜野 泰樹	堀内 俊孝	森 徹郎	善積 健也
井上 正人	大野 俊一	亀村 昭寛	小餅谷ゆかり	高畑 宗晴	早川 尚吾	早川 尚吾	堀江 賢治	森 昌彦	吉野 裕之
井上 満哉	大野 智之	河合 長和	近藤 功平	高安 進	早川 雅一	早川 雅一	堀上みどり	森岡 利之	吉見 友伸
井上 義朗	大野 雅司	川井トオル	近藤 嶺一	田口 和夫	林 武男	林 武男	本田 悠成	森岡 禮二	吉村 敏行
井上 了	大畑 徳晃	川越いつえ	齊 隆	竹内 淳郎	林 良蔵	林 良蔵	本多 遼成	森川 大地	米田 卓司
今井 和雄	大本 正義	川島 祥一	西光 幸子	竹内 寛	早野 和夫	早野 和夫	前田 嵩典	森川 充康	若林 崇
今里 聡	大森 淳弥	河田 貞則	齋藤 誠	竹尾 倫	原 祥二	原 祥二	前田 裕幸	森國 義男	和田 高明
今城 律雄	大森 紀子	河波 和男	齋藤 好弘	武田 裕紀	中西 直樹	中西 直樹	前田 昌裕	森田 雅雄	和田 恭典
今田 公一	大山 達也	川西 康之	坂井 智弘	武田 雄喜	中西 基浩	中根 実	前田 稔	森田 明	渡瀬 智之
井町 恒雄	岡 秀好	河野 圭汰	坂尾英登志	竹田 龍平	中根 実	早野 和夫	升田 修	森田 健資	渡辺 健治
今村 清	岡田一比古	川橋 孝造	坂田 敬	田坂 郁夫	中野 瑤季	東 将浩	増田 裕明	森田 達也	渡辺 純男
伊村 永夫	岡田 純子	河村 守泰	坂田 祥光	多鹿 博文	中野 瑤季	東 宗克	増田 昌之	森田 鉄也	渡邊 昌昭
岩崎 正春	岡林 晃輝	神崎 伯夫	佐々木周作	田嶋 景子	中村 啓	樋口 晴久	増田 光起	森田 晴菜	渡辺 義嗣
岩永 充夫	岡本 稔	神田 知輝	佐々木良二	田尻 英作	中村 功	樋口 弘樹	増田 光起	森田 智之	渡里 滋
上杉 尚輝	小川 貴山	関林 亨平	佐藤 俊輔	多田 龍生	中村 毅彦	樋口 弘樹	松井 瞳	森永 新一	亘 信二
上杉 優介	小河 義美	岸本 勇夫	里田 誠	田中 克宜	中山 孝一	平井 和子	松岡 直之	森本 靖彦	

●法人寄付ご芳名（敬称略・五十音順）14団体

うち掲載を希望されない団体 2団体

日立造船株式会社
一般財団法人恵濟団
マルホ株式会社
株式会社マーベックスLIKE up Dance Studio (Happy Spray)
株式会社イケテイ
株式会社島津製作所
株式会社ポッカクリエイト岩瀬コスファ株式会社
日本テクノプラス株式会社
DAIKOテクノ株式会社
一般社団法人生産技術振興協会

●同窓会等寄付ご芳名（敬称略・五十音順）3団体

大阪高等学校同窓会

グローバル人間学科目・専攻学生一同

阪大/旧大阪外大・デンマーク語専攻／学科・同窓会

●教職員寄付者ご芳名（敬称略・五十音順）148名

うち掲載を希望されない方 40名

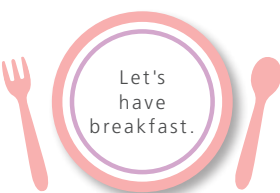
青島 真人
明石 満
疇地 宏
足立 博行
我妻 竜三
新井 由之
池 道彦
池内 祥見
池本 忠雄
石井浩二郎
伊藤 和博伊藤 利道
井上 克郎
井上 裕滋
入江 政安
岩谷 好和
上向井正裕
内田儀一郎
宇都宮 裕
大川 玲奈
大竹 文雄
大原 智奥山 雅則
尾崎 雅則
尾上 孝雄
柏木 正
狩野 裕
河原 充
鬼澤 佳弘
木村 正
楠本 真二
久保庭雅恵
栗本 英世小門 典夫
小巻 善郎
近藤 滋
佐伯 昭紀
佐波 隆
ジェリーヨコタ
下條 真司
新谷 泰範
菅 哲男
杉山 昌章
関山 明惣田 訓
高井 裕之
高嶋 康人
高森 晃
田川 俊二
竹村 精治
竹村 治雄
田中 学
谷元 昭一
田谷 正仁
塚常 健太床谷 文雄
富田 賢吾
内藤 牧男
中川 敦史
中谷 和彦
仲野 和彦
仲野 徹
永肇 隆志
中村 春木
中村 麻貴
難波 啓一西尾章治郎
西川 宏
坂東 隆男
深瀬 浩一
福田 隆
藤井 英俊
藤田 清士
藤原 千春
藤原 融
古市 智
星野 俊也前田 芳信
増田 敏裕
松田 秀雄
松宮 孝明
松本 光弘
三浦 雅博
水垣 共雄
水島 郁子
水野 晴央
三藤 博
南 二三吉宮本 信幸
三好 裕美
向井 弘志
村上 新吾
村田 雪美
森 伸也
森 雅志
森川 利明
森田 浩
森原 一郎
柳田 敏雄山内 和人
山下 隆久
山下 元三
山中 正
吉川 秀樹
吉田富士江
楽木 宏実
李 鍾國
渡邊 有佑

▼大阪大学未来基金は、頑張る阪大生を応援しています。未来基金をもとにした学生支援事業の一例をご紹介します。

朝食を摂って授業の準備も万全！

●ケロッグ・グリコからの支援で、朝食を無料で提供

初日に開催した記念セミナーの様子▶
左から西尾章治郎総長、阪大卒業生のケ
ロッグの井上ゆかり社長及びグリコの栗本
隆取締役常務執行役員、朝食摂取に関する
知見紹介を行った磯博康医学系研究科教授



▲無料朝食で授業への英気を養ってください！

5月17日(火)～6月10日(金)の平日に、学生に健康で規則正しい生活を送ってもらうため、大阪大学未来基金、日本ケロッグ合同会社、江崎グリコ株式会社との産学連携による「阪大×ケロッグ×グリコ“栄養バランス満点”無料朝食セット」を図書館下食堂で昨年に続き提供しました。初日の300食は開始40分足らずで終了という盛況ぶり、阪大生は美味しく朝食を食べていました。

大阪大学未来基金のご案内

大阪大学では、学術研究や教育・人材育成を目的とする「大阪大学未来基金」を設けております。
大阪大学の未来を支えるため、企業、団体、個人のみなさまからのご支援をお願い申し上げます。

個人の皆さまへ

【ご寄付の方法】 ゆうちょ銀行・金融機関からのお振込、クレジットカードでのお引き落としをご利用いただけます。また、毎年1回定額を自動引き落としでご利用いただくことができます。
【税法上の優遇措置】 所得税控除等を受けることができます。

法人の皆さまへ

【ご寄付の方法】 専用の申込書がございますので、お手数ですが、渉外本部未来基金事務局までご連絡をお願いいたします。
【税法上の優遇措置】 寄付金の全額を損金に算入できます。

【ホームページは [大阪大学未来基金](#) で 検索 [www.miraikikin.osaka-u.ac.jp](#)】

未来基金についてのお問い合わせは、大阪大学渉外本部未来基金事務局までご連絡をお願いいたします。
【大阪大学渉外本部未来基金事務局】 TEL:06-6879-8327 FAX:06-6879-4337 e-mail:kikin@office.osaka-u.ac.jp

第37回大阪大学夏まつり



夏だ! まつりだ! Voyageだ!

帆船なつ丸、いざ出港!

日時 7月9日(土) 11:00~19:30 [盆踊り 17:30~19:30]

場所 大阪大学箕面キャンパス

大阪外国語大学時代から続く、地域の皆様と楽しむ夏の一大イベント。25専攻語を有する外国語学部ならではの模擬店や、おなじみのステージ企画、夕暮れの盆踊りに加え、今年は新しく「民族衣装コレクション」を開催! 皆様のご参加をお待ちしております!

※当日、自動車は原則全面入構禁止になります。公共交通機関でご来場ください。
※詳しくは、WEBで<https://natsuma2015.amebaownd.com/>



◀ 昨年の様子

▲ 箕面キャンパス中央階段



阪大を前進させる新組織誕生



データビリティフロンティア機構
Institute for Datability Science

▲データビリティフロンティア機構
キックオフシンポジウム



男女協働推進センター
Center for Gender Equality Promotion

▲男女協働推進センター
設立記念シンポジウム

大阪大学は4月1日、ビッグデータの利活用促進を目指すデータビリティフロンティア機構を、また男女協働型の教育研究活動を確実に実施することを目指す男女協働推進センターを設立し、4月21日(木)、5月24日(火)に設立記念シンポジウムをそれぞれ開催しました。

阪大の「日常」を切り取った写真を掲載

Instagram はじめました



▲大阪大学の
Instagram 公式アカウント

大阪大学の最新情報をWEBに掲載中
あなたの気になる媒体からご覧ください



総合 HP
●阪大の今を幅広く網羅



動画 Youtubeチャンネル
●動画で見る阪大



速報性 twitter
●阪大に関するニュースやイベントをいち早く



親密性 Facebook
●阪大にいいね! 身近なトピックはこちらから



写真 Instagram
●阪大の「日常」を切り取った写真を掲載



研究情報 ResOU
●阪大の最新研究成果はこちらから

謹んで地震災害のお見舞いを申し上げます

このたび、熊本県を震源とする地震をはじめとした震災により、被害を受けられましたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。一日も早く復旧されますよう、お祈り申し上げます。

大阪大学総長 西尾章治郎

◎バックナンバーは、大阪大学ホームページ www.osaka-u.ac.jp からご覧いただけます。

●大阪大学ニュースレターへのご意見、お問い合わせがありましたら、Eメールで受け付けております。E-mail: newsletter@ml.office.osaka-u.ac.jp